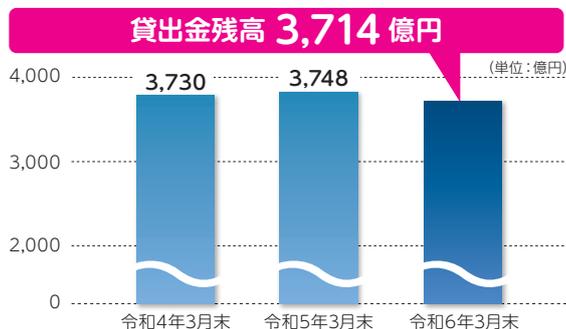




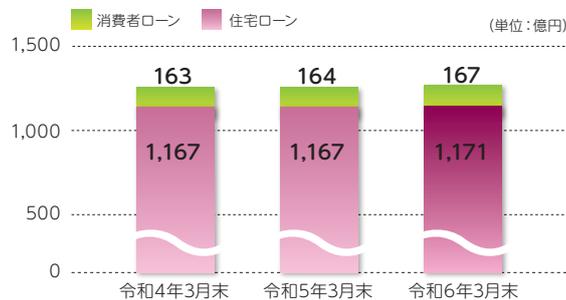
【預金積金残高の推移】



【貸出金残高の推移】



【個人ローン残高の推移】



【自己資本の推移】



自己資本比率の推移



◆業績ハイライト(事業成績の推移)

預金積金の推移

預金積金の期末残高は、前期比91億80百万円増加の8,116億12百万円となりました。内訳としましては、定期性預金が192億62百万円減少し、流動性預金は284億43百万円増加しました。

また、預かり資産については、ライフプラン支援活動を通じ、お客さまの様々なニーズに合わせ、一時払型・月払型・第3分野商品や、定期性預金と預かり資産の複合商品「未来設計2023」などの商品を案内する提案型セールスを展開したほか、資産運用担当者を中心としたコンサルティング営業を取り組み、期末残高は前期比21億54百万円増加の568億64百万円となりました。

貸出金の推移

貸出金の期末残高は、前期比33億47百万円減少の3,714億98百万円となりました。

事業者向け融資では、経営支援を目的に課題解決に向けた提案活動を強化した結果、設備資金が26億43百万円増加したものの、コロナ関連融資の繰上返済等の影響もあり、運転資金が65億71百万円減少し、その結果、前期比39億28百万円の減少となりました。

個人向け融資では、カードローン等の当座貸越残高が減少した一方、顧客ニーズに添った商品提案に努め、消費者ローンキャンペーン等の取組みを強化したことにより、前期比5億99百万円の増加となりました。

損益の状況

損益面については、利回り低下による貸出金利息の減少、市場金利の上昇を見据えた保有有価証券の一部売却による損失計上に加え、令和6年7月からの改刷対応等の経費が嵩み、主な業務活動の利益を示す業務純益は、前期比3億28百万円減少の6億85百万円となりました。

自己資本比率の状況

自己資本比率は金融機関の健全性、安全性をはかる重要な指標のひとつです。信用金庫では経営の健全性と安全性を確保するため、リスク資産に対して4%以上の自己資本を保有することが義務づけられています。

令和6年3月末における自己資本比率は前期比0.08ポイント上昇の8.65%となり、上記基準の4%を大幅に上回っており健全性を確保しております。今後とも経営の健全性を維持していくために収益力の強化に努め、自己資本の充実を図ってまいります。